

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : **ワンガードプライマー(R1) W 硬化剤**
製品種類 : 塗料
使用上の制限 : 業務用
会社名 : シーカ・ジャパン株式会社
住所 : 東京都港区元赤坂 1 丁目 2 番 7 号 赤坂 K タワー 7F
電話 : 03-6434-7291
緊急連絡先電話 : Sikaテクニカルセンター 047-436-0811
SDS No. :

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素
GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体: 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分 4

急性毒性(経皮): 区分 3

急性毒性(吸入): 分類できない

皮膚腐食性/刺激性: 区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分 1

呼吸器感作性: 分類できない

皮膚感作性: 区分 1

生殖細胞変異原性: 区分 1B

発がん性: 分類できない

生殖毒性: 分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 分類できない

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 分類できない

誤えん有害性: 分類できない

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性): 分類できない

水生環境有害性 長期(慢性): 区分 2

オゾン層に有害: 分類できない



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

皮膚に接触すると有毒

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

遺伝性疾患のおそれ

長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

安全対策

取扱う前に全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わない。
保護手袋/保護眼鏡/保護衣/保護面などの個人用保護具を着用する。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入してはならない。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざける。ー禁煙。
取扱い後は手洗い・うがいをする。
この製品を使用するときに、飲食または喫煙してはならない。
環境への放出を避ける。容器は密閉しておく。

応急措置

気分が悪い時は、医師の診断/手当を受ける。
飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡する。口をすすぐ。無理に吐かせてはならない。
皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ皮膚を流水/シャワーで洗う。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外し洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当てを受ける。
暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診断/手当を受ける。
汚染した衣類を再使用する場合は洗濯する。漏出物を回収する。

保管

施錠して保管する。
直射日光を避け、換気の良い涼しい所で、容器を密閉し保管する。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 :混合物質
化学名 :変性脂肪族ポリアミン

成分名	含有量(%)	CAS No.
変性脂肪族ポリアミン	非公開	非公開
フェノール	0.1-1	108-95-2
m-キシリレンジアミン	1-8	1477-55-0

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を直ちに新鮮な空気のある場所に移動させ、必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚(又は髪)に付着した場合

付着物を拭き取り、水と石けんでよく洗う。
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄をつづけること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。

飲み込んだ場合

多量の水を飲ませて吐かせる。自発的に嘔吐できる場合は、さらに水を与えて吐かせる。
但し、無理に吐かせようとしてはならない。
被災者に意識がない時は何も与えてはならないし、吐かせようとしてもいけない。
いずれの場合も、直ちに医師の手当てを受ける。

最も重要な徴候及び症状

眼や皮膚への刺激。アレルギー反応、発疹、咳、めまい、頭痛、嘔吐、下痢。

応急措置をする者の保護

適切な保護具(保護メガネ、保護マスク、手袋等)を着用する。換気を行う。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

初期火災には、粉末、泡、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。
大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

不適切な消火剤

データなし

特有の消火方法

火災発生場所の周辺への関係者以外の立入りを禁止する。

消火を行う者の保護

消火作業の際には有毒なガスを吸い込まないように呼吸用保護具等を着用し風上から消火作業を行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出した場所の周辺への関係者以外の立入りを禁止する。蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。
暴露防止のため、保護具を着用して作業を行う。付近の着火源を取り除き、消火機材を準備する。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

回収、中和 ならびに 封じ込め及び浄化の方法/機材

少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸収させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等によく拭き取る。

多量の場合は、土砂等の不燃物で囲って流出を防止し、漏出したものをすくいとり空容器に回収する。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、目に入らないように、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。

取扱後は手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。

(火災・爆発の防止)

火災・爆発の恐れ無し。

局所排気、全体換気

屋外または換気のよい場所でのみ取り扱う。

注意事項

強酸、エポキシ化合物と反応するので、十分注意する。

混合バッチスケールが大きくなるに従って発熱温度も高くなるので、十分注意する。

容器は破損、腐食、割れ等のないものを使用する。使用済み容器は一定の場所を定めて集積する。

安全取扱注意事項

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

必要な個人用保護具を使用する。

取り扱う前にすべての安全注意を読み理解する。

過去にアレルギー症状を経験している人は取り扱わない。

接触回避: 使用するまで密閉しておく。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

消防法上の引火性液体であるので、消防法等の法規制に従うこと。

製品が低温度に長い時間暴露されると、混濁、分離、結晶することがある。

上記の場合は、製品を38-60℃までの加熱を1時間行い、透明になるまで混ぜなければならない。

施錠して保管すること。
直射日光、凍結を避け、換気の良い涼しい所で、容器を密閉し保管する。
保証期限を過ぎた製品は速やかに廃棄する。

避けるべき保管条件

直射日光が当たる場所。屋根がない場所。高温になる場所、およびその隣接した場所。
開封状態での保管。

配合禁忌

消防法で定める混載禁止物質との同一保管は禁止。
セットで販売している化学物質以外との配合は禁止。

容器包装材料

他の容器に移し替えないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

職業ばく露限界値、生物学的限界値等の管理指標

管理濃度 :データなし

許容濃度 :

(フェノール) 日本産衛学会(1978) 5ppm; 19mg/m³ (皮)

(フェノール) ACGIH(1992) TWA: 5ppm (上気道刺激; 肺損傷; 中枢神経系障害)

(m-キシリレンジアミン) ACGIH(1992) STEL: 上限値 0.018ppm (眼, 皮膚及び胃腸刺激)

設備対策

労働衛生法上の規制に従って、可能な場合には、換気設備などの施設上の技術的な対策を講じて作業者を保護しなければならない。取扱い場所の近くにシャワー手洗い洗眼設備等を設けその位置を表示する。

保護具

呼吸用保護具

必要に応じて、その有害性物質に対して適切な保護の出来る保護マスクを着用する。

手の保護具

保護手袋を着用する。

着用すべき手袋の材質:不浸透性の耐油性手袋(アクリロニトリル、ブチルゴム、ネオプレン系)

眼の保護具

保護眼鏡または防災面を着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護衣および必要に応じて保護長靴、保護前掛けを着用する。取り扱う場合には、皮膚を直接曝さないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

衛生対策

取扱い後は、良く手洗いうがいをする。

この製品を使用するときは、飲食又は喫煙をしてはならない。

汚染した衣類を再使用する場合は洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体

色 : 黄色透明

臭い : アミン臭

融点/凝固点 : データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲 : データなし

可燃性 : データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 : データなし

引火点 : 約135℃

自然発火点 : データなし

分解温度 : データなし

pH : データなし

粘度 : データなし

動粘性率 : データなし

溶解度

水に対する溶解度 : 水に不溶
n-オクタノール/水分配係数 : データなし
蒸気圧 : データなし
密度及び/又は相対密度 : 1.0g/cm³ (25°C)
相対ガス密度(空気=1) : データなし
粒子特性 : データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

室温、乾燥状態では安定。

危険有害反応可能性

強酸、エポキシ化合物と反応し発熱する。

避けるべき条件

高温加熱、混触危険物質との接触、火源

混触危険物質

強酸、エポキシ化合物

危険有害な分解生成物

データなし

11. 有害性情報

物理的、化学的及び毒性学的特性に関係した症状

急性毒性

急性毒性(経口)

(フェノール) rat LD50=375mg/kg (計算値)
(m-キシリレンジアミン) rat LD50=660mg/kg (ACGIH, 2001)

急性毒性(経皮)

(フェノール) rat LD50=670mg/kg (EHC 161, 1994)
(m-キシリレンジアミン) rabbit LD50=2000mg/kg (ACGIH 7th, 2001)

急性毒性(吸入)

(m-キシリレンジアミン) mist: female rat LC50=0.8mg/L/4hr (Directive 84/449/EEC, B.2.; GLP) (SIDS)

労働基準法: 疾病化学物質

フェノール

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

(フェノール) ラビット/ヒト 腐食性 (EHC 161, 1994)
(m-キシリレンジアミン) ラット/マウス 腐食性 (SIDS, Access on Apr. 2012)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

(フェノール) ラビット 非可逆的作用 (EHC 161, 1994)
(m-キシリレンジアミン) 腐食性物質 (UN RTDG)

感作性

呼吸器感作性 : データなし

皮膚感作性

(m-キシリレンジアミン) cat. 1; guinea pig : SIDS, 2012

生殖細胞変異原性

(フェノール) cat. 1B; CERI/NITE 有害性評価書 No.32, 2005

発がん性

(フェノール) IARC-Gr.3 : ヒトに対する発がん性については分類できない
(フェノール) ACGIH-A4(1992) : ヒト発がん性因子として分類できない

生殖毒性

(フェノール) cat. 1B; CERI/NITE 有害性評価書 No.32, 2005

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分 1]

(m-キシリレンジアミン) 肺 (SIDS, Access on Apr. 2012)

[区分 2]

(m-キシリレンジアミン) 全身毒性 (SIDS, Access on Apr. 2012; ACGIH, 2001)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): データなし

誤えん有害性 :区分に該当しない

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

長期継続的影響によって水生生物に毒性

水生環境有害性 短期(急性)

(フェノール) 甲殻類 (ネコゼミジンコ属の一種) LC50=7.83mg/L/48hr (4 つ以上報告の幾何平均値)

(m-キシリレンジアミン) 甲殻類 (オオミジンコ) EC50=15mg/L/48hr (環境省生態影響試験, 2009)

水生環境有害性 長期(慢性)

(フェノール) 魚類 (ファットヘッドミノー) NOEC=0.75mg/L/30days (NITE 初期リスク評価書, 2007)

水溶解度

(フェノール) 溶ける (ICSC, 2001)

(m-キシリレンジアミン) よく溶ける (ICSC, 2002)

残留性・分解性

(フェノール) 急速分解性あり (BOD による分解度:85%/2weeks; TOC による分解度:95% (既存点検, 1979))

(m-キシリレンジアミン) BOD による分解度:22%/4weeks (既存点検, 1984)

生体蓄積性

(フェノール) log Pow=1.46 (ICSC, 2001)

(m-キシリレンジアミン) log Pow=0.18 (ICSC, 2002); BCF < 2.7 (Check & Review, Japan)

土壌中の移動性 :データなし

オゾン層破壊物質 :分類できない

その他情報

その他の環境有害性情報 漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与えるおそれがあるので取り扱いに注意する。

特に製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

環境への放出を避ける。

内容物、容器、内容物が付着したウエスなどの廃棄は、関係法令、地方/国の規則に従って廃棄する。

焼却炉で少量ずつ焼却処理するか、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

空容器は製品の残滓が入っているので、製品についての注意事項に従う。

毒性の蒸気やガスが発生するので、容器を電気又はガスによる加熱や溶断してはならない。

空容器は、業者による洗浄と修理をしないで再利用してはならない。

容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号 : 2735

クラス : 8

容器等級 : III

正式品名 : アミン類(AMINES, LIQUID, CORROSIVE, N.O.S.)

指針番号 : 153

特別の安全対策

容器の破損、内容物の漏れがないことを確かめ、転倒、落下、破損の無いように積み込み、荷崩れを防止すること。火気厳禁。

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法の輸送について定めるところに従う。

海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送 : 航空法に定めるところに従う。

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法

該当しない

労働安全衛生法

施行令18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物（平成26年6月1日以前）

該当しない

施行令18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物（平成26年6月1日施行分より）

フェノール; m-キシリレンジアミン

施行令18条の2 名称等を通知すべき危険物及び有害物

フェノール; m-キシリレンジアミン

特定化学物質障害予防規則

該当しない

有機溶剤中毒予防規則

該当しない

労働省通達基発477号による表示

アミン混合物（脂肪族ポリアミン）

化学物質管理促進(PRTR)法

該当しない

消防法

第4類 引火性液体第3石油類 危険等級 III 非水溶性液体

大気汚染防止法

有害大気汚染物質、特定物質

フェノール

水質汚濁防止法

指定物質

フェノール

船舶安全法

腐食性物質 分類8

航空法

腐食性物質 分類8

海洋汚染防止法

有害液体物質(混合物)

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN
Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)
2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)
2014 TLVs and BEIs. (ACGIH)
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>
2013 許容濃度等の勧告（日本産業衛生学会）
JIS Z 7252, JIS Z 7253 : 2019
Supplier's data/information
化学物質総合情報提供システム（独立行政法人製品評価技術基盤機構NITE）

責任の限定について

本データシート記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、化学品の含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載内容は新しい知見又は法規制の変更等により改訂されることがあります。注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

以上